

エドワード・リリー文書でみる米国の対外情報活動の成立過程

—OWI 解散から USIA 設立までの〈空白の時期 1945—1953〉を中心に

吉本秀子

本論文は、第二次世界大戦から冷戦期にかけて心理戦専門家として米政府高官を務めたエドワード・リリーの個人文書の検討に基づきながら、1945年の戦時情報局(OWI)解散から1953年の合衆国情報庁(USIA)設立までの時期に、アメリカの対外情報活動がどのように成立したかを探るものである。この時期は、日本占領の時期と重なる重要な時期でもある。先行研究が明らかにしたように、原則としてOWIの活動は国務省に引き継がれた。しかし、そのとき「例外」とされた地域が、日本などの「占領地域」に対する情報活動だった。これらの占領地域の担当は、占領の主管部署であった米陸軍省とされたのである。本論文は、このような米国の対外情報活動の成立過程をアイゼンハワー大統領図書館所蔵のリリー文書に基づき、実証的に示した。さらに、本論文は、そこで日本を含む「占領地域」が米国の対外情報活動において「例外的」に扱われた事実は、その後の日米関係が「外交」の土俵に乗ったあとも、「軍事的」であり続けた一つの原因になったと分析している。

Establishing Process of U.S. Foreign Information Activities Documented in Edward P. Lilly Papers: Focusing on “Blank Period 1945-1953” from OWI Dissolution to USIA Establishment

Hideko YOSHIMOTO

Based on the personal collection of Edward P. Lilly, special assistant to U.S. government on psychological warfare, this paper analyzes the establishing process of U.S. foreign information policy and activities during the “blank period” between the dissolution of Office of War Information of 1945 and the establishment of United States Information Agency of 1953. As previous research shows, the State Department had taken over the U.S. foreign information activities after World War II, but the Department of Army took over the information activities in occupied areas such as Germany and Japan, which determined the U.S. policy toward Japan afterwards.